

【落合東遊歩道】 (車道と完全分離のニュータウン歩行者専用道路)

多摩丘陵の地形をうまく利用し、谷部を車道が通り、山部に住宅や公園が配置されており、歩行者専用道路は、高台や高架の上に造られている。

【一本杉公園】

街道沿いに大きな一本杉がこの公園の名の由来。現在は無い。一本杉球場は1985年に江夏豊選手の引退試合がおこなわれた。

スタジイ: 多摩市の天然記念物。幹の周囲3.2m、高さ約16m、枝張り約11m。

古民家: 公園南側に二棟の古民家が移設復元されている。多摩市乞田の旧有山家、多摩市落合の旧加藤家住宅、どちらも農家で、18世紀頃の建物。

【よこやまの道】

多摩東公園の丘の上広場から、南多摩尾根幹線道路沿いに、長池公園までの約9.5km。「赤駒を山野に放し捕りかにて 多摩の横山徒步ゆか遣らむ」と万葉集に詠われている古道の復活。

よこやま: 万葉の昔、武蔵野の国府(府中)から眺めると、横へ伸びるなだらかな丘陵を総称して横山と呼んだ。

黒川配水池: この付近は丸山と言われ、川崎市内の最高地点(149.5m)。

【汁守神社】 (シルモリ)

黒川の鎮守。天明2(1782)年社殿が再建され、主祭神は保食命(うけもちのみこと)。武蔵六社宮(現在の府中市の大国魂神社)の祭礼の際に神前に供える汁物を司っていたことが由来。南へ尾根を隔てて隣接する町田市真光寺町には「飯守神社」があり、双方とも武蔵六社宮の末社で、それぞれ「汁」と「飯」を奉納していたという。

黒川: 名前の由来は、川の水が澄んでいるので、川底が黒く見えたことから。(川崎市発行 川崎の町名)。アイヌ語の、「クウォル」(飲み水)が「黒」へ。(福島私見)。